

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
平成 29 年 5 月号



平成 29 年度全農千葉県本部園芸事業の取組

全国農業協同組合連合会千葉県本部
園芸部長 加藤 浩生

全農千葉県本部では、3 年計画で定めた重点実施策や実行具体策を実践するとともに、『『魅力増す農業・農村』の実現に向けた J A グループの取組と提案』で示した具体策や、「農業競争力強化プログラム」に係る取組を実践し、「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」を図ります。

全農千葉県本部では、「オール千葉」として生産基盤を強固にし、安全・安心で美味しい青果物、愛情ある花きの生産振興と、大消費地に近い立地条件を活かした販売力強化を図るため、次の重点実施策に取り組みます。

1 食の安全・安心対策の取組強化

消費者や実需者からの信頼を確保するため、生産履歴記帳の徹底等、J A グループ千葉食の安全・安心具体策に取り組みます。

また、各 J A・生産組織が主体的に G A P へ取り組めるよう県と連携して普及を進めます。

なお、危機管理体制を強化し、昨今問題となっている異物混入のリスクについては生産者に向けた異物混入防止に関する啓発活動を継続的に実施します。

2 「オール千葉」体制の更なる強化

全農千葉県本部では、千葉県・(公社)千葉県園芸協会と共に本県の主要 7 品目 (大根・人参・キャベツ・ネギ・胡瓜・トマト・さつまいも) について「品目別協議会」を立ち上げました。

J A・産地間連携による「オール千葉」体制を更に強化し、出荷規格の統一や簡素化、県統一選果基準表の作成、収量アップ対策や合同販促活動の展開等の具体的な取組を進めます。

3 生産・販売対策

(1) 出荷量の多い主要 7 品目の生産の長期化・周年化を推進することにより、J A や生産者の既存選果施設・農業機械等の稼働期間延長を図り、市場占有率の向上に繋がります。

(2) 地域特産品目 (とうもろこし・菜花・枝豆等) は、生産量の維持・拡大を図りつつ計画的な販売に取り組みます。

(3) 複数産地から出荷される同一品目については、顧客の求める大口ロットの注文への対応が可能な「オール千葉」による一元販売体制を構築します。

(4) パートナー市場との連携強化・情報共有のもと優先出荷・販売促進に努めるとともに、量販店等の配送センター直送や別枠発注販売の拡大等、予約相対取引の拡大を図り、販売単価の維持・向上に繋がります。

(5) 増加傾向にある青果物の加工・業務用需要に対し、輸入品からのシェア奪回と国産の消費拡大に繋げるため、寒玉キャベツやレタス、ネギを中心に実需者からの要望に応じたマーケットインによる生産振興を進めます。

4 系統結集による花き事業の強化

販売先のニーズに対応できる生産組織の再編と未共販組織の取り込みにより、生産・販売の維持拡大を図ります。

5 直販事業の強化

(1) 大規模経営体等の地域農業を支える農業者に契約取引を提案し、系統結集に取り組みます。

(2) 直接取引や中間事業者を経由した取引等、複数の販売方法により販路を確保するとともに、パッケージ・集配送機能の強化等による量販店対応に取り組みます。

(3) 外食・中食事業者向けへの販路拡大を図るため、取引先を明確にした安定的な販売ルートを確立します。

6 県産農産物の輸出促進

海外市場ニーズに対応した輸出向け品目の生産振興により、輸出事業に取り組む J A の拡大を図り、県産農産物の安定的出荷体制を構築します。

野菜ニュース



千葉県さつまいも協議会による 先進産地調査の結果報告について

公益社団法人千葉県園芸協会 産地振興部

(執筆者: (現)生産振興課 園芸振興室 主査 榎 晋介)

当県では「オール千葉」の取組として、野菜の主要 7 品目で品目別協議会を設置し、産地連携を推進しています。「千葉県さつまいも協議会」の取組として、2 月 6 日～7 日に宮崎県及び鹿児島県の調査を行ったので報告します。

宮崎県や鹿児島県では、作業受委託や洗浄選果施設等による産地維持の取組や輸出による販売単価の維持といった様々な取組を行っています。そこで、県産さつまいもの生産・販売力強化と産地の活性化を図るため、県内JA、県、全農千葉県本部及び千葉県園芸協会、宮崎県及び鹿児島県の取組を調査しました。

1 (有)アグリセンター都城

(有)アグリセンター都城は後継者不足や遊休農地の増加といった問題を解消するため、JA 都城の出資により設立されました。農産事業部、茶事業部、グリーン事業部の 3 事業部を柱に、農業経営及び作業受委託の事業を展開しており、年間収支は設立当初以外は黒字の優良経営を展開しています。農産事業部では水稻を中心に大型機械による播種から収穫までの作業受託を行い、生産者の農作業の省力化や、機械投資の抑制を図っています。茶事業部では遊休農地解消のため、茶の栽培を行っており、(株)伊藤園と連携した取組も行っています。グリーン事業部では、さつまいもやごぼう等の畑作経営と畑作の作業受託を行っています。



(有)アグリセンター都城での意見交換

2 鹿児島県農業開発センター大隅支場

大隅支場では、鹿児島県の主要農産物の一つであるさつまいも等について研究を行っています。育苗や生産面だけでなく、機械化一環体系を実現するための研究にも取り組んでおり、県内メーカー等と連携して様々な機械の開発・改良を行ってい

ます。一斉採苗機や茎葉収穫機等については、当県では導入されていないことから、参加者からは様々な質問が出されました。

3 JA 串間市大東

JA 串間市大東は作付面積 500ha、生産者数 181 戸、年間出荷量は 1.2 万 t の産地であり、主に青果向けの高系 14 号を生産しています。当 JA にはキンカン選果場の施設を活用した「支援センター」が整備されています。本センターでは生産者が持ち込んだ土付きのさつまいもの洗い・選別・箱詰めを行います。支援センターを活用する生産者は全体の 40～50% であり、利用者は年々増加しています。当 JA でも高齢化による担い手不足は深刻ですが、本センターの活用により作付面積を増加した生産者も見られます。

また、香港を中心に、台湾、シンガポールに輸出を行っており、1 月末の時点で約 580t を輸出しました。こうした販路拡大により販売価格の安定化に取り組む他、生産者をモデルとしたポスターやのぼり旗等を活用して「やまだいかんしょ」の知名度アップにも取り組んでいます。



JA 串間市大東の支援センターの視察

4 今後に向けて

本県においても、千葉県さつまいも協議会を核として、県産さつまいもの作業受委託や省力化の検討・推進、販路拡大といった取組をソフト・ハードの両面からの支援し、関係機関と連携して実施していきます。



千葉県における産地連携の取組について（平成 28 年度）

公益社団法人千葉県園芸協会 産地振興部

（執筆者：(現)生産振興課 園芸振興室 主査 槇 晋介）

当県では、主要 7 品目の生産力・販売力強化を図るため、各 J A、全農千葉県本部、千葉県、千葉県園芸協会がオール千葉体制により様々な取組を実施しています。平成 28 年度に品目別協議会を中心として推進した県内主要 7 品目の事業を紹介します。

1 平成28年度の品目別協議会の取組

ねぎ協議会では、需要が高まる5月の端境期に出荷する「プレミアム夏ねぎ」について、専用シール・販促資材の作成や量販店での試食宣伝など、販売面から支援しました。平成28年産については、JA長生・JA山武郡市・JAちばみどりの約120名が約44,000ケース（前年比217%）を出荷し、販売金額は約1.3億円になりました。平成29年産についても、新規に取り組む生産者への助成等により、生産拡大を推進しています。また、栽培技術や省力化機械、経営指標等を網羅的にまとめた「千葉県産ネギ栽培マニュアル」の作成・配付や大田市場での主要JAによるPRを初めて行いました。

トマト協議会では、県産トマトの品質向上・平準化を図る取組として、春・抑制トマトで販売検討会議を開催するとともに、前年度に引き続き複数産地による合同販促を首都圏の量販店で開催しました。生産面では、抑制トマトの品質安定化のため、県内の複数産地において高温対策の実証試験を実施するとともに情報交換を行いました。また、12月5日は、県内主要産地の生産者や関係機関を参集した「千葉県トマト産地研修会」を開催し、今後のトマトの振興方針を共有しました。



千葉県トマト産地研修会（12/5）

さつまいも協議会では、市場・JA・関係機関で検討を行い、主要品種ごとの販売方針を策定しました。本取組を生産者まで周知・徹底するため、主要JAの全生産者に販売方針を配布するとともに、出

荷場等に掲載する大判ポスターを作成しました。また、大田市場での試食宣伝会を実施しました。焼き芋需要に対応するため、年内「シルクスイート」→年明け「べにはるか」の出荷リレーの実施を励行した結果、1月までのシルクスイートの出荷進捗率は94%と高く、有利販売につながりました。また、本方針に基づいて販売プロモーションを行いました。



さつまいも試食宣伝会（10/14）

にんじん協議会では、本県の春夏にんじんで被害が問題となっている難防除害虫「ヒョウタンゾウムシ」の防除対策の取組を引き続き推進しました。また、秋冬にんじんでは、主要等級であるL級の規格を統一しました（42本以上）。

キャベツ協議会では、1～4月の出荷量が減少する時期に安定生産が可能な品種の選定試験を実施し、だいこん協議会では、省力化技術である「べたがけ栽培」の検討・普及を推進しました。きゅうり協議会では、反収向上の実現に向けたCO2施用や環境制御の実証試験をJAちばみどり及びJA山武郡市管内の生産者（6戸）で実施しました。

2 平成29年度の取組

平成 29 年度は、品目の特徴や取り巻く情勢・推進状況等に応じた取組を関係者で協議しながら、産地の強化を図っていきます。また、併せて、7 品目以外（すいか、やまといも、なばな等）についても、産地連携による生産力・販売力の強化が期待できる場合は、支援を推進・検討していきます。

頑張る産地



— シクラメン新品種育成にチャレンジ — 陸沢町 (有)鳴戸川園芸 鵜澤秀成氏

長生農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 本居 真一

陸沢町で鉢花栽培に取り組む「(有)鳴戸川園芸」の鵜澤秀成さん。「花を通じてみんなを笑顔にしたい」の想いで、シクラメンの育種に取り組みながら、高品質な鉢物生産を目指しています。

1 経営の概要

長生郡陸沢町「(有)鳴戸川園芸」の鵜澤秀成さんは、栃木県のシクラメン農家での研修などを経て、平成 11 年に 20 歳で就農しました。栽培面積は、施設約 50 a、露地約 17 a で、家族と雇用労力 6 名で経営しています。

栽培品目は、シクラメンをはじめ熱帯スイレン、



【鵜澤秀成さん】

プルメリア、ミニバナナ、ニューギニアインパチェンスなどの鉢花が約 20 品目、野菜苗も栽培しています。市場や量販店への出荷を中心に、様々な販売チャンネルを持っています。

2 シクラメンについて

シクラメンの経営が中心で、年間、5 号鉢を 25,000 鉢、ガーデンシクラメンを 50,000 鉢、生産しています。シクラメン農家では、栽培用に自家採種が広く行われていますが、鵜澤さんはそれに加えて、新しい品種の育成を行っています。

流行の変化が激しい花の世界ですが、その中で常に注目を集められるように、自社で持っている遺伝資源をもとに交配を行っています。あまり育種目標を絞らず、幅広く交配を行う中で現れる新規性、商品性の高い系統を見だし、育成していくのが鵜澤さんの育種の特徴で、とにかく今までにないものを作り出すことを目指しています。

これまでに育成した品種は、自分で栽培するだけでなく、代理店を通じた販売も行っています。品種の特性で種子が採りにくいため、種苗価格は一般的な品種の倍以上しますが、品質に自信を持っており、安売りは品種の価値を下げ、種苗を買ってくれた人にも失礼になるからと、あえて行わないのがポリシーです。現在、6 品種を販売していますが、次の品種候補として 5 系統を選抜中で、この中からまた新たな品種が出る日も近いとのこと。

3 今後について

残念ながら現状では国内の花のマーケットは大きくはありません。新たなニーズを作り出すことが重要です。今後は消費の中心となる若い層に向けては、雑貨や家具等と一緒に展示して、室内での花や緑の楽しみ方を提案して行くなど、他業種とのコラボで認知度を上げたいと考えています。さらには、自身の強みである育種を通して、自分たちの花づくりを世界に誇れるような「文化」に高めたい、そうならば国内のみならず海外でも発展していけるのではないかと考えています。「花を通じてみんなを笑顔にしたい」、鵜澤さんの想いは広がります。



【選抜中の系統】

果樹ニュース



施設をリフォームしてびわ産地の維持・発展を！

生産振興課 園芸振興室
主査 清原 玲子

安房地域では、約 7ha の施設で「びわ」が栽培されていますが、築 30 年以上の施設が増加してきており、老朽化した施設の建て替えや修繕・改修の推進が課題となっています。そこで離農した人の施設を借り受け、リフォームし、規模拡大した事例を紹介します。

1 安房地域における施設びわ栽培

安房地域のビワの施設栽培は約 30 年前から始まり、露地と比較して作期の拡大や省力化、収量アップ等の効果があることから、現在は約 7ha になっています。また、食味の良さから市場で高い評価を得ています。

2 新「輝け！ちばの園芸」産地整備支援事業を活用した施設リフォーム

しかし、ビワの施設は老朽化が進んでおり、建て替えや修繕・改修が必要なものも増えています。中には、生産者の高齢化によりビワの施設栽培を中止する例も見られます。

その対策として、平成 28 年度県単独事業の新「輝け！ちばの園芸」産地整備支援事業を活用して、老朽化した施設の基礎の補強や天

窓・妻面の修理などをリフォームし、栽培を継続しました。

今回の試みは、施設を借りることで、新設よりも設備投資を低く抑えることができるだけでなく、何よりも新植とは違い、借り受けた年から成園並みの収量が得られるなどの大きなメリットがあります。



施設内に実った果実



リフォームした施設

今後も、生産者の高齢化により栽培が継続できなくなる施設が増える可能性があることから、規模拡大できる生産者とのマッチングを推進するとともに、新「輝け！ちばの園芸」産地整備支援事業等を活用してリフォームを推進し、産地の維持・発展を支援してまいります。

千葉県立農業大学校 オープンキャンパスの開催について

農業大学校の授業をのぞいてみませんか。
実際に行っている授業や実習の見学ができます。

日 時: 第 1 回 平成 29 年 6 月 12 日(月)～16 日(金)

第 2 回 平成 29 年 8 月 21 日(月)～24 日(木)

(午前 10 時 20 分から午後 1 時 30 分まで)

場 所: 千葉県立農業大学校

内 容: 学校施設及び実際の授業や実習の見学

(授業や実習については、見学できる内容が実施日より異なります。) 詳しくは本校ホームページにてお確かめください。

申込方法: メール又は FAX にて第 1 回は 6 月 2 日(金)、第 2 回は 8 月 10 日(木)までにお申込みください。なお、申込書は、本校ホームページからもダウンロードできます。

11 コースから選択して実際に体験実習を行う一日体験入学も 6 月 17 日(土)と 8 月 25 日(金)に行っています。本校に関心のある方はこの機会に、是非参加してください。

申込先: 千葉県立農業大学校 農学科

〒283-0001 東金市家之子 1 0 5 9

電話: 0 4 7 5 - 5 2 - 5 1 2 2

FAX: 0 4 7 5 - 5 4 - 0 6 3 0

[http:// ww.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html](http://ww.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html)



体験の様子

平成 2 9 年度千葉県立農業大学校 農業者養成研修(後期)の募集について

1 対 象

農業の知識と技術を習得して県内で就農しようとする方や既に就農している方。

2 研修の種類と研修期間および募集人員

(1) 基礎研修 平成 29 年 9 月 6 日(水)～
平成 29 年 11 月 30 日(木)
募集人員 5 名

(2) 専門研修 平成 29 年 9 月 6 日(水)～
平成 30 年 2 月 28 日(水)
募集人員 10 名

3 応募受付期間

平成 29 年 6 月 12 日(月)～

平成 29 年 6 月 30 日(金)(消印有効)

4 応募方法

所定の願書などの必要書類一式を提出する。
※願書などは、ホームページからダウンロードするか、82 円切手を貼った返信用封筒を同封の上、問合せ先に請求してください。

5 選考方法

書類審査、面接を行い、受講者を決定する。

6 受講料

1 ヶ月 3, 3 0 0 円

7 提出・問合せ先

〒283-0001 東金市家之子 1 0 5 9

千葉県立農業大学校 農業研修科

電 話 0 4 7 5 - 5 2 - 5 1 4 0

F A X 0 4 7 5 - 5 4 - 0 6 3 0

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>